

誌上学習会 7 月号 自宅学習のすすめ 58

6 月号会話文の解説です。テーマは「災害」です。

① 火事

A: 火事に巻き込まれたら、煙を吸わないようにします。 ⇨ 火事の『時』 口形は「とき」

B: 鼻と口を覆うといいよね。 ⇨ 手で鼻と口を覆っています。『鼻』『口』の手話表現はありません。

A: それから身を低くするといいです。 ⇨ 『立つ』から『座る』 表現と同時に上体を前に倒します。次に『逃げる』表現もあります。

B: どうして？

A: 煙は 天井付近にたまりやすく、床近くの空気は比較的きれいだからです。 ⇨ 煙がたまっている様子を口元を膨らませて表現。「床」は『下』口形「した」と表現。「きれい」とは「煙がない(少ない)」という意味で『ない』を表します。煙がある、ないの表現時の口形をぜひシャドーイングしてみてください。

② 地震

A: 地震の時は、まず 身を守りましょう。 ⇨ 『必要』を力強く表現すると、より重要さが伝わります。

B: どうやったらいい？

A: 丈夫な机の下に隠れて、足をしっかり握りましょう。 ⇨ すべて力を込めて表現し、文末には『必要』と表現します。「必要という言葉はないのに、どうして表現するの？」と思われるかもしれませんが。単語を置き換える(手話⇨日本語)だけでは、文意は伝わりません。日本語で伝えようとしている意味(概念)を掴み、その意味(概念)を手話で伝える工夫を、ろう者の会話から学びましょう。

B: 頭を守ることも大事だね。 ⇨ A の言葉に、同意の反応を表現しています。手話の会話では、このような相手への「反応」も欠かせない要素です。

③ 津波

A: 私の実家は 海沿いの町なので、津波が怖いです。 ⇨ 「海沿い」を『海/近い』(町は省略されています)と表現し、「なので」は『～ため』と続けます。『地震』という言葉はなくとも、地震による津波を表現しています。

B: 私は海から 離れた町だから安心だ。 ⇨ 両手の『場所』を左右に動かして距離感を表現しています。「安心」は『大丈夫』と表現しています。

A: いいえ、あなたの家の近くには 川が流れているでしょ。波が遡ってくるので 油断はダメよ。

⇨ 客観的な視点で『川』をまず表現し、両手を使い、津波が川からあふれるように遡る様子を体の正面で表現しています。繰り返しシャドーイングしてみましょう。手の動きだけでなく、視線、口形も併せて挑戦してください。

B:わかりました。近所のマンションに逃げるようにします。⇨『離れた』の表現とは反対の動きで表現します。

A:実家では、裏山の神社に走って避難することを家族で約束しています。

⇨『地震/(間)/避難/すぐ/そこ/行こう』

「実家の裏山に神社があるの。地震が起きたらすぐに避難！あの神社だよねと、みんなで話しているの」とおしゃべりするように、肩の力を抜いて練習してみましょう。

④ 災害発生後、避難所での会話

避難所で炊き出しのおにぎりが配られました。「ご自由にお取りください」と張り紙が掲示されました。

A:おにぎりがやっともらえる。良かった…。

B:おなかがすいたよ。「自由に」と書いてある。たくさんもらおう。⇨『やった！/自由/たくさん/とる/とる/とる』

A:ちょっと待って。この場合、好きな数を取っていいということではないの。⇨『いっぱい/とる/とる/とる』

B:では、どういう意味なの？

A:誰でももらえる。許可は要らないよという意味です。⇨「あの～、いただいてもよろしいですか？」と問う必要はない。『許可』という手話単語を使わずに、具体的に(現場での会話を表現)わかりやすく伝えています。さらに、「たくさんもらってよいという意味ではない」ことを補足しています。

B:そうなのか。わかった。家族分だけもらっていい。

A:避難されているみんなにいきわたるといいですね。⇨「もしたくさんとってしまったら、みんなにいきわたらないでしょう」状況を具体的に説明することで、相手の的確な情報を伝えることができます。

★聞こえる人同士の日本語での会話においても、お互いの思い込みなどから、行き違いがおこり、コミュニケーションがぎくしゃくしてしまうことがあります。相手の立場を考慮して伝える、そして伝わっているかの確認も怠らないように努めていきましょう。

